

リート マンスリー

2019. 5. 10発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社
URL: <https://www.smd-am.co.jp>



1. 月間のリート市場の動き

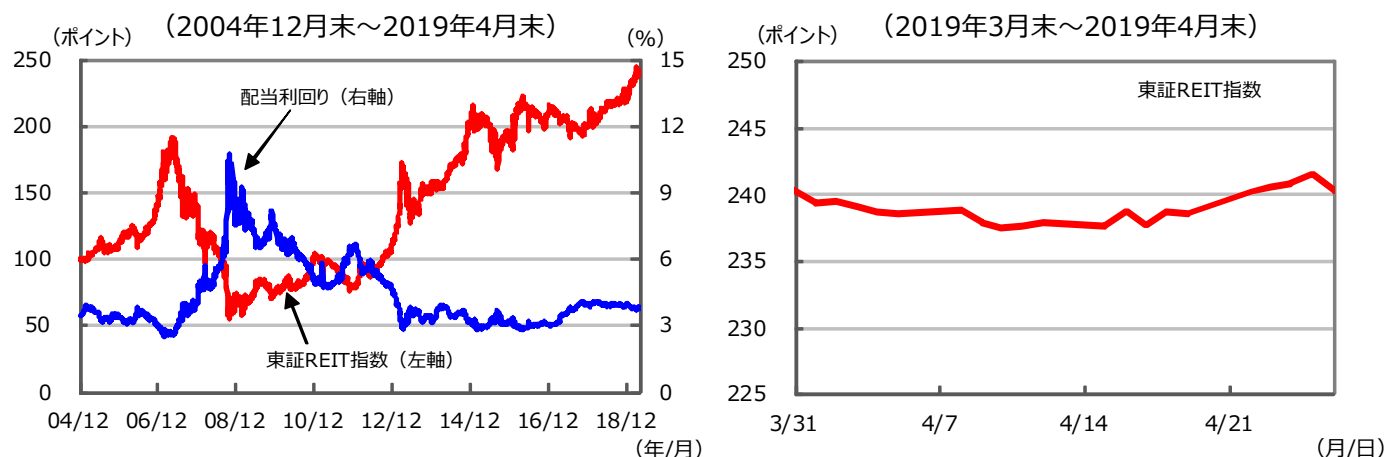
4月の東証REIT指数（配当込み）の騰落率は、▲0.7%となりました。

リート市場は、上旬に利益確定売りに押されて軟調だったものの、同市場が1-3月に急ピッチで上昇してきたことを勘案すると調整幅は限定的で、中旬以降の買い戻しの動きも含めて、根強い需要を印象付ける展開でした。日銀は25日の金融政策決定会合で物価見通しを引き下げ、金融緩和を継続する姿勢をより明確化するなど、リートにとって好環境が続いています。用途別東証REIT指数では、商業物流等セクターがアウトパフォームしました。

不動産市況をみると、3月の都心5区のオフィス空室率は1.78%と、前月から横ばいながら過去最低水準にあり、賃料の伸びも継続しています。

日銀による月間のリートの買い入れは、8回（合計96億円）行われました。

2. 東証REIT指数（配当込み）の推移



		基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
		2019/4/26	2019/4/19	2019/3/31	2019/1/31	2018/10/31	2018/4/30	2016/4/30
東証リート指数	指数値	3,822.76	3,796.63	3,851.10	3,709.11	3,459.73	3,358.59	3,465.54
	騰落率	-	0.7%	-0.7%	3.1%	10.5%	13.8%	10.3%

(注1) 左右のグラフの東証REIT指数（配当込み）は2004年12月末を100として指数化。休日の場合は前営業日のデータを使用。

(注2) 表中の騰落率は基準日をベースに該当期間の指数の騰落を表示。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

3. 指数構成比率の上位銘柄

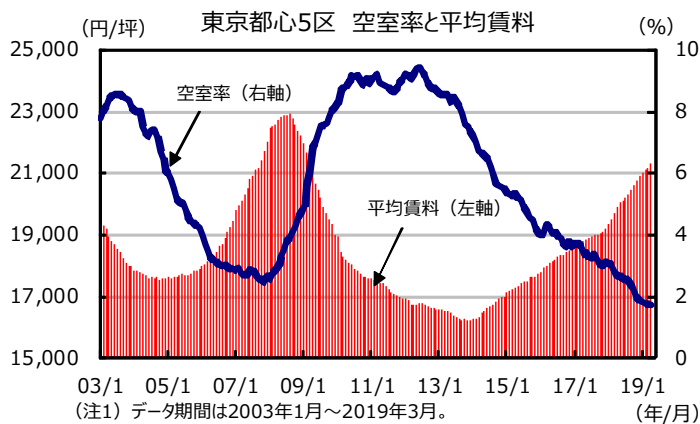
東証REIT指数の上位構成銘柄（2019年4月末現在）

【指数構成銘柄数 63】

順位	銘柄名	構成比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.4%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	6.6%
3	野村不動産マスターファンド投資法人	5.4%
4	日本リテールファンド投資法人	4.3%
5	ユナイテッド・アーバン投資法人	4.2%
6	オリックス不動産投資法人	4.2%
7	大和ハウスリート投資法人	3.7%
8	日本プロロジリート投資法人	3.4%
9	アドバンス・レジデンス投資法人	3.2%
10	GLP投資法人	3.2%
	その他	54.5%
	合計	100.0%

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

4. 東京の空室率および賃料の推移



(注1) データ期間は2003年1月～2019年3月。

(注2) 東京都心5区は千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

グローバルリート マンスリー

2019. 5. 10発行



三井住友DSアセットマネジメント

作成：三井住友DSアセットマネジメント株式会社
URL: <https://www.smd-am.co.jp>



1. 月間のグローバルリート市場の動き

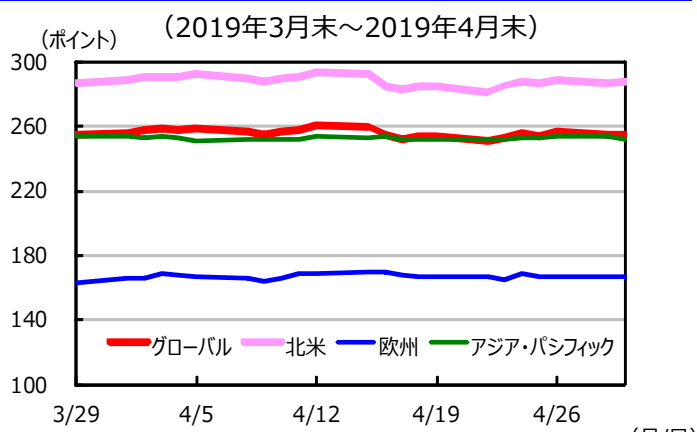
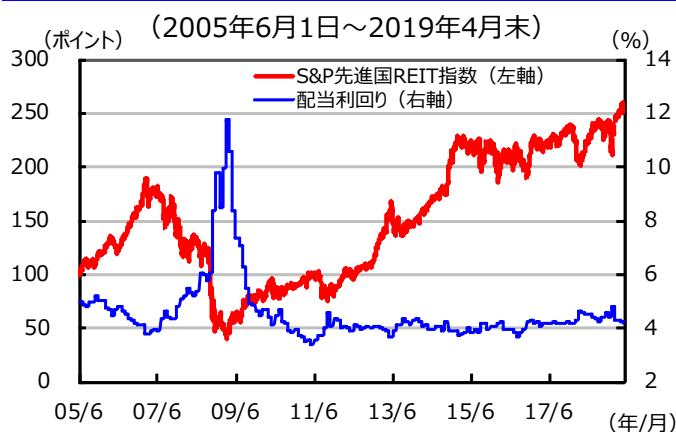
4月のS&P先進国REIT指数（除く日本、配当込み、円ベース）の騰落率は+0.2%となりました。内訳は、現地通貨ベースのリート要因が▲0.3%、為替要因は+0.5%となりました。

米国リート市場は、小幅に下落しました。中国の製造業購買担当者景気指数（PMI）などの経済指標が市場予想を上回り、世界的な景気後退への不安が和らいだことを受け、米国長期金利が上昇したことが嫌気されました。一方、欧州リート市場は上昇しました。米政府高官が米中通商協議の進展を示唆したことで貿易摩擦が解消に向かうとの見方が広がったことや、ドラギ欧州中央銀行（ECB）総裁がユーロ圏景気の下振れリスクについて言及したことに伴う、金融緩和の長期化観測などが好感されました。オーストラリアリート市場は、良好な経済指標を受けて景気後退への懸念が和らいだことで欧米の長期金利が上昇したことなどが嫌気され、下落しました。

為替については、対円で、米ドル、ユーロ、英ポンドなどが小幅上昇した一方、豪ドルなどは小幅下落しました。

※月末前日のリート価格を月末の為替レートで換算した当月の指数は▲0.3%の下落となりました。

2. 世界のリート指数の推移



(注1) 世界のリート指数はS&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）を使用。地域別データは、当該指数を構成する地域別指数。

(注2) 上段の2つのグラフは、2005年6月1日を100として指数化。

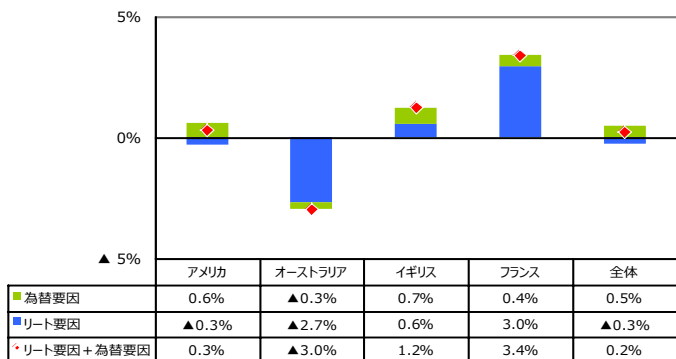
(注3) 左表は作成基準日をベースに、各期間の指数騰落率を表示。休日の場合は、前営業日のデータを使用。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

	基準日	1週間前	1か月前	3か月前	6か月前	1年前	3年前
	2019/4/30	2019/4/23	2019/3/29	2019/1/31	2018/10/31	2018/4/30	2016/4/29
グローバル		0.8%	0.2%	5.5%	9.7%	16.1%	24.9%
北米		1.0%	0.2%	5.7%	9.6%	21.1%	26.4%
欧州		0.9%	2.1%	4.3%	3.0%	▲8.8%	2.0%
アジア・パシフィック		▲0.2%	▲1.3%	5.6%	16.6%	17.1%	40.1%

3. 国別収益率

2019年4月の国別収益要因分解

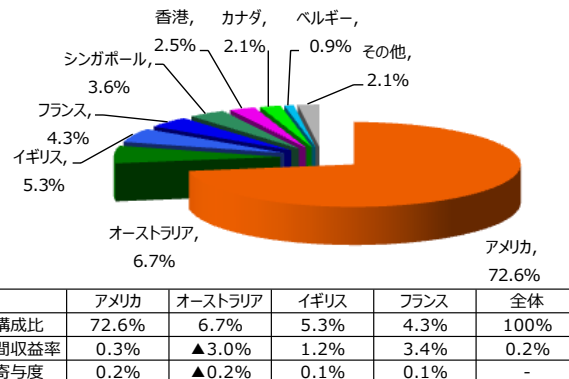


(注) S&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）の国別収益率のデータをリート要因と為替要因に分解。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

4. 国別比率

国別構成比率（2019年4月末現在）



(注1) S&P先進国REIT指数（除く日本、円ベース）の国別構成比率。

(注2) 寄与度は構成比と収益率の積。簡便的な方法により算出。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。